

マガレイ (沖まこ、あかじまこ)

生態的特徴等

【生態】瀬戸内海・若狭湾以北の日本沿岸に分布する。茨城沖に生息するのは仙台湾～鹿島灘の系群と考えられ、主分布域は仙台湾である。分布水深は 75～150m とされる。マコガレイによく似るが、無眼側の尾びれ周辺が黄色みを帯びていることで区別できる。また、分布水深はマコガレイより深場である。主に多毛類を食べる。成長は 1 歳で全長 15cm、雄はそれ以降成長が鈍くなり、全長 20cm を超えるとほとんど成長しない。雌は 2 歳で全長 22cm、3 歳で 27cm、4 歳で 32cm になる（図 1）。寿命は 10 年程度で、2 歳でほぼ成熟し、産卵期は 2～5 月とされる。

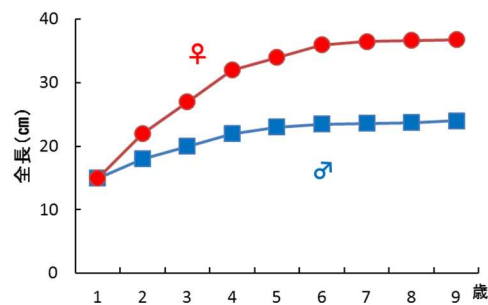


図1 マガレイの成長

【漁法と盛漁期】主に底曳網で漁期（9 月～翌年 6 月）を通して周年漁獲され、平潟、那珂湊漁港での水揚げが多い。

【利用】焼き物や煮魚として食される。茨城県では鮮魚での流通が主。

新規加入少なく、資源は低位・減少

（漁獲量）H16～18 年は 20 トン前後の漁獲があったが、それ以外の年は 1～11 トンで推移していた。しかし、R2 年以降漁獲量は 1 トンを下回り、R6 年は漁獲がなかった（図 2）。

（加入量）近年、新規加入群の良好な加入が確認されていない。

（水準と動向）資源水準は、過去の底曳網（小底 5t 以上）の漁獲量から計算した CPUE (kg/隻・日) の推移から「低位」、動向は、直近 5 年間の CPUE の傾向から「減少」とした（図 3）。

水 準



動 向

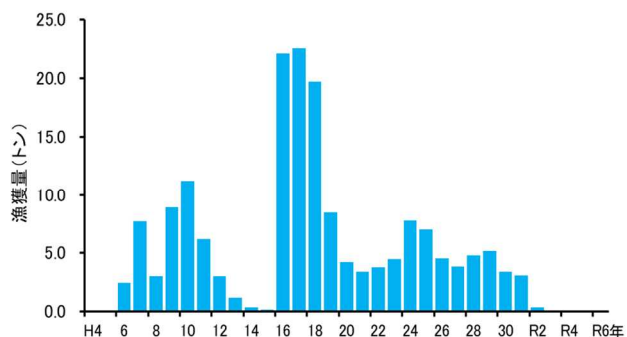


図2 マガレイの漁獲量(属地、水試システム)

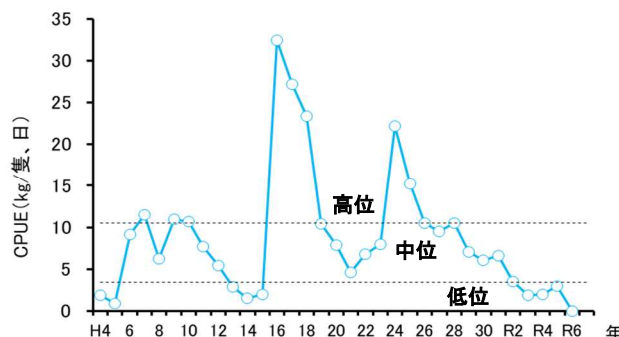


図3 マガレイの CPUE(小底 5t 以上)

【全国の漁獲動向】

茨城県以外の主な産地は、宮城県、福島県や北海道など。